

OB Life

日本歯科大学新潟歯学部少林寺拳法部宗心会会報誌

第6号
1999年1月

発行責任者
毛呂 文紀



「スペイン - 花の小道」画 佐藤 満

皆様へのお詫び

会員の皆様は年二回発行するなど豪語いたしました。ところが、この二年程発行することが出来ませんでした。事を、謹んでお詫び申し上げます。せっかく会費の方から予算を頂いておられますのに、ご期待に添えず誠に申し訳ございませんでした。私のような墮落者が、皆様の大切な会費をのうのうと使い、自分の手を煩わす事なく業者任せで会報を発行する事など、死んでも出来ません。そんな訳で、今回は、このような形で会報を発行してみました。が、いかがでしょうか。業者に出すのが、時間的に厳しかったというのもあることながら、手作りでの程度のもので出来るか試してみなかった、ということもあります。せめてもの、罪滅ぼしと考えております。幸い、私の近所に有望な助っ人(池田彩子)が引っ越してきましたので、これからは、もうこの様な事は起こり得る事さえ考えられませんが、何卒皆様の深いご理解を賜りたく存じます。

広報 毛呂文紀

巻頭言 「宗心会とその魂」 名誉会長 西村恒一

平成十年正月十七日東京で行われた宗心会に出席し、いつも変らぬ温かいふんいきの中で楽しく二時間を過ごし、若い力を身体いっぱい吸収して幾つか若返ることができました。

宗心会は私にとっては大好きな愛すべき会である。少々無骨者の集りの感を受けるが、そうではない。人生における先輩、後輩の関係がしっかりしており、窮屈な面がないとはいえないが、相互に

助け合って進んでいる姿は見事である。今時のエゴを抑えきれない先輩、後輩の関係もない自分だけしか考えない不逞の輩には敬遠される会であるかも知れない。

宗心会には幾かの魂がこもってい

る。「仁」「義」「礼」「信」などの魂である。

仁とは慈愛、義とは公共のためにつくす気持、礼とは思いやり、信とは誠である。これらの魂は少林寺拳法部と

いう厳格な環境の中で、しかも鈴木、池藤両監督の教育によって培われた大いなる魂として宗心会に引き継がれ、今日に至っている。

これらの魂は医療人としてももつべき重要な精神的資質でもあると

思う。

思うままに勝手なことを書いてきたが、「愛すべき宗心会よ永遠に」



列島ブロックリレーエッセー

「歯科医療界」

北海道ブロック 岡村敏弘

歯科医師過剰時代といわれて久しい。しかし、私は歯科医師が過剰であるとは思っていない。歯科医師というものを実際に診療に当たる者のみと考えているから過剰と思えるのではなかろうか。例えば、歯科医師が関与する行政は医療保険行政と歯科保健行政しかない。その厚生省でさえ歯科医師は10名程度しかない。大学教育が行われているにもかかわらず文部省に歯科医師はいない。介護保険のことが広く議論されているにもかかわらず歯科医師が関連していない、保健施設・福祉施設等に専属の歯科医師が配置されていない、各自治体に専属の

歯科医師がいない等、数え上げても過言ではないように思える。もし、歯科医師が様々な職域にも入り込んでいたら、国民が考える歯科医療は大きく変わっていたと推察される。

医療は決して医科>歯科ではない。多くの歯科医師は声を大にしてよく言う。しかし、医科の方が強いから常に医科>歯科なのだ。これには間違いがあると私は考える。医科の中には多数の診療科があるが、診療科毎で考えれば医科は内科が圧倒的に多い。しかし、その内科単科の数より歯科単科の数の多いことに気付いている人がどれくらいいるのだろうか。単科でいったら歯科ほど強い科はないのである。それなのに、私からすれば本旨を忘れて自分の保身にまわってしまう歯科医師が多いから医科>歯科なのだと考えざるを得ない。

医科では、医療政策・医療管理・医療経済等は大学の講座にもあり卒前・卒後教育でも行っているにもかかわらず、歯科では大学に講座もなく、専門でない開業医の方の力によっている。したがって、医師は歯科医師よりも法律を苦手と考えていないし、医師は様々な職域にも入り込んでいる。まず、歯科医療界においては、全てのことを自分のこととして厳に捉え、他人任せにすることなく各人が参加し、自分の地



歯科医師がいなければきりがな

も、国民に対してでなければならまだまだ壁があるから後押しされていない。国民科医療界のことクコントロールくらいではな

か T V C M の力

「ホッとしようね」

東北ブロック 鈴木 直子

先日の温泉同好会（東北ブロック会議）の時のことだが、15期齋藤幸枝と話が盛り上がってしまった。デンタル前の幹部はなんで皆あんなにかっこいいのだろうという話だ。今は年に一、二度しか現役に会わないので「あんなにかっこいい男の子うちにいたっけ？」と思ってよく見ると「ああ、あの子だったのか。」という事がしょっちゅうだ。それが必ずデンタル前の幹部、しかもほとんどがボウズなのだ。「精悍」という言葉はまさに彼らのためにある。同時にいかにデンタルが彼らのプレッシャーになっているのかよく分かる。だからこんなおんきな事を書くのは申し訳ないのだけどその時の彼らのステキさはキムタクな目じゃない。

幹部交替後さらに再び会っしふっくらしち前の飄軽さでいたりす年くらいしかのだけと何か残念な気もす様と言ってあからまた、い待ち受けてい



ばらくして彼たときは、少ていたり、持とりもどしる。たった半経っていないが違う。少しるが、お疲れげたい。これるんな困難がのだから。

人間が幸福を感じるのは抑制から解放された瞬間、たとえば寒いところから暖かいところに移った瞬間、空腹が満たされた瞬間、たまっていたおしっこ（その他）を出した瞬間、悩みが解決した瞬間などであると、桂枝雀が言っていた。確かに抑制がなければ幸福を実感することは、あまりないだろう。デンタル前の幹部は、大きな抑制を抱え小さな幸福を感じている心の余裕も無いくらいであろう。だから開放された幸福はひとしおであり、しばし糸の切れた風船になるのはしょうがない。それでいいんだよ人間は。

二年半前に久保さんが仙台に来たとき、夜中に着いたのに「いま飛行機の中でこれ読んできたんや。」と言って歯科雑誌を手にしていた。ギリギリまで仕事をしてきたのに…。彼はいつも自分の課した抑制の中にいた。現役時代からOBになっても変わらず、いつも戦い続け、最後までゆるむ事なく輝いていた。でもそんな人は一人だけでいいよ。

あったかいお風呂にはいったときの幸福感、「腹減ったー」と言ってご飯を食べるときの幸せなど、原始的な開放感に身をまかせるとき、少し下等な動物になってしまったような不安を感じる事があるけど、いまの日本ではたくさん味わうことができるこんな幸せをもっとゆっくりかみしめて生きようと思う。

みなさんも、いつまでもそんなにキラキラ（中にはガラガラの人もあるけど）しなくていいから、ほっとする時間を持って下さいね。



「ランニング」

神奈川ブロック 平井 一也

走り始めたのは88年頃だったと思う。最初は苦しくて、あの電柱まで走ったら歩こう、いやもう一本むこうの電柱まで行ったら休むの状態だった。楽しさを身体がないので速く走ゆくりと肌で走る。今では1度キロ、時間があ間にして1~2時から開放される至89年修善寺バイアスロン大会がデビュー。以来、年2~3回のマラソン大会に出場する。これがまた気分が良い。数えてみると20大会以上に参加したことになる。でも、ランニングは2番目の趣味。1番目は、少林寺拳法である。



う、息も絶え絶え続けるうちに走る覚えた。選手では必要はない。季節を感じながら家を出ると約10れば20キロ。時間あらゆるものか福の時間である。

「私が寝る理由」
新潟ブロック 設楽 康

最近の世の中は物騒である。特に子供の世界が何か狂っている。死に至る「いじめ」しかり、おやし狩りしかり、援助交際しかりである。そして極めつけが神戸の事件である。何かがおかしい。しかし、これらも子供が悪いわけではないと思う。親・先生・マスメディア・人と人との付き合い（近所付き合い、親戚付き合いなど）の少ない世の中が子供を狂わせているのだと思う。私は矯正のアルバイトでいろいろな場所で動かしてもらったがやはり都会に行く方が、子供が子供の目をしていないと感じることが多い。そしてしている時も最いくらいに聞いざ矯正をするのに任せっきりに話だけになった高校生でも毎回人が多いの



また、ある教師められたら何もが一番だと言に子供を預けら

は、子供がいじ言わず引越すう。そんな教師れるのか。

マスメディア・テレビの力はすごいものがあると思う。うちの子供もテレビからかなりの言葉を学んでいる。その中でもいじめを笑いにする番組が多すぎる。また、テレビゲームはリアルで残酷な殺戮的なものが多い。うちの子供はとにかくかわいい。こんなかわいい子をこれからの世の中に出すのは不安だが、考えたらきりがないのでこの辺で寝ようと思う。

「私の宝物」
中国・四国ブロック 大澤 真一郎

はっきり言って私にはそんな物はない。と言って「家族が宝物」なんて言うのも恥ずかしい。ムムム…私も38歳。結構いい年になってきました。諸先輩の中には、厄年を無事終えられた方もいらっしゃるでしょう。大学卒業後14年、人生の真っ只中と言うところでしょうか。ふりかえってみるに、小学でたてしなながら考え昔のことです。さしてなので、自分の眺めていました不思議な生きてるん手なんだ。」ている事が何たのです。を言ってるんかもしれませう思ったのです。そして小学校高学年、中学校では誰もが考える命題「人生って何だ?」「何のために生きてるんだ?」子供の頃、思春期の頃の幼い疑問。でもよくよく考えてみると、その答えはまだ出ていないのです。皆さんもそんなことを疑問に思い、それなりに悩んだ事があるのではないのでしょうか?そしてその答えは出たでしょうか?年を重ね高校、大学、社会人となる中で、仕事に追われ、生活に追われその答えを求め事を忘れ、また半ばあきらめてしまっている。そんな自分に気がつく今日この頃です。



校の低学年ごろうか。ウンコをたものでした。から和式便所ですることもない手のひらをよくた。その頃おほ感覚「あつ僕はだ。これが僕のと、自分が生きか不思議に思え「何をバカな事だ」と思われるんが、本当にそう思ったのです。そして小学校高学年、中学校では誰もが考える命題「人生って何だ?」「何のために生きてるんだ?」子供の頃、思春期の頃の幼い疑問。でもよくよく考えてみると、その答えはまだ出ていないのです。皆さんもそんなことを疑問に思い、それなりに悩んだ事があるのではないのでしょうか?そしてその答えは出たでしょうか?年を重ね高校、大学、社会人となる中で、仕事に追われ、生活に追われその答えを求め事を忘れ、また半ばあきらめてしまっている。そんな自分に気がつく今日この頃です。

眠っているわが子の小さな手を見ていると、その昔、自分が自分の手を見て感じた事を思い出します。「この手がこれからの人生の中で、何に触れ、どんな夢をつかんでいくのだろう

か?」と。そして「自分は子供の頃に感じたその思いに充分応えられるだけの生き方をしてきたらどうか?」と。

人は生まれ変わり、死に変わりする中で、自分の魂を磨き、進歩向上させていくのだそうです。

自分は人生の中で、どれだけ光り輝いていられるだろうか。人が、人生という旅をする旅人ならば、その行き先と目的はしっかりさせておきたいものです。そしてこうやって人生の中の数年間、あるいは数十年間をともに歩むということは旅の道連れ。子として、親として、夫として、妻として、そしてまた友としてよき道連れであり、楽しく充実した旅にしたいものです。

私には、特に宝物はないけれど、しいて言うならば、この人生という旅とその道連れ達ということになるのでしょうか。残りの人生、明るく、元気で、前向きで、発展的でありたいものです。

宗心会の道連れさん達、今後ともよろしくお願い致します。

「FAX」
東海ブロック 匿名希望(H.W田)

どんな重要な電話がかかって来ても、診療中にはでられない事が多いが、FAXであれば、治療の合間に読む事が出来る。我が医院のFAXは受付の横にあり、すぐに私の所に持って来てくれる。

今日も忙しい診療時間帯にFAXが入った様である。受付がここにこしてFAX用紙を持って来た、見ると

宗心会第〇期 情報連絡
事務局長W殿

となっている。差出人は同期のM上である。そこには「T先生女性同伴講演旅行の件について」という重要な内容がビッシリと書き込まれているではないか。報告講演会に演者のが我がT上はT先生のホテルに午後た。「本日宿チェックインか?」ホテルのると「T様で着になっておれの方もまだ答、えっTはではないのか?M上は何も聞かされていなかったのである。



まれているではないかと、あるとして招かれた先生である。M宿泊場所である9時に到着し泊のT先生はされていますフロントに尋ねるか、まだご到着しません。お連れですね。」との返ひとりであるの

ロビーで待つこと1時間。なにげなくホテルの入口に目をやると、腹の出た中年男と若い女性が入館するところであった。目を凝らして見ると、なんとT先生ではないか。

「や~M上、ごめんごめん長岡で花火があって高速が混んじゃってさ。」

「それよりなんだ、隣のこの方を紹介しろ」それは、雪だるまの様な男のやや後ろに控えめに立つ、清楚な雰囲気の良いパンタロン姿の女性であった。

「TKと申します、今日はありがとうございます。」
「やあ、運転手代わりに医局の後輩連れて来ちゃったあ。」

頬を赤らめ、意味のない弁解をするT先生であった。私はこの重要な情報を、同期のM呂にすぐにFAXした。一緒に診療をしているM呂の父は、これを読んで、

「う~ん、T君もなかなかやるなあ。」
という御言葉を述べたそうである。

学術だより

歯科インプラントに思うこと その1：何が重要なのかー1

日本歯科大学新潟歯学部歯科補綴学教室第2講座 第7期 多和田泰之

最近、インプラントが新しい方向へ向かおうとしています。ここ3~4年くらいの欧米の情勢を見ると、もう顎骨との接合界面や応力の分散などは話題に上らず、審美的な上部構造を装着するためのシステムと頸部歯肉のマネージメントが中心となっています。

今までただ固定性の補綴で噛めればよかったのが、見た目にも天然歯と変わらない状態へと患者側の要求水準が高くなってきたのです。日本でも既にこの潮流が始まっていますが、これについては次回にお話しすることにして、今回は現在主流となっている骨内インプラントについて私が考えていることをお話ししたいと思います。

ところで、新潟歯学部でも2年前から「歯科インプラント学」なる授業が始まりました。補綴、口腔外科、歯周、放射線などの科から講師が分担して講義をする形式です。国立大学でも正式にインプラントが臨床に導入されたし、あと数年すると実際にインプラントを学んだ歯科医師が卒業してくるわけです。もちろんアンダーグラジュエートの講義だけでは不十分です。矯正と同様に専門的な知識を卒後研修して初めて臨床に応用できるのだということを教えることがこの授業なのですが。

しかし、今までは正直言ってママッ子扱いだったインプラントも、日本でもここに来てようやく認知されたという感じです。患者さんのQOLを向上させる一つの選択肢としてやっと一人前になったという意義は大きいだろうと思います。

新潟歯学部ではこの授業を担当している各科が参加して1年前から口腔インプラントセンターを設立し、共同でインプラント治療を行うようになりました。このセンターでは実に様々なインプラントを臨床で使っています。実例を挙げると、FINAFIX（1回法、2回法）、ノー

ベルファーマ（ブローネマルク）、ステリオス、ITI、IMZ、FRIALIT 2、スクリーブント等々、過去においてはトランスマンディブラー、バイオセラム・サファイア（各種板型、スクリュー型、歯内骨内）、ポーラスインプラント、POIブレード、パークデンタル（2回法チタンブレード）等がありました。現在使用されているインプラントの共通点は、スクリューないし円筒形のインプラント体で、osseointegrationかそれに近似した骨界面を持つものであるということです。つまり、どれが良いという答は大学としては持っていません。逆に言うとosseointegrated-typeのシリンダーインプラントならばどれでも良いのかもしれないのです。どのインプラントも臨床的には一定水準以上の成績を持っていますし、多くの患者さんに満足してもらっています。一方多かれ少なかれ、どのインプラントも答の見つからない問題点を持っているのも事実です。節操がないとか、無責任とか批判も有るとは思いますが、大学として特定のインプラントに限定してしまっただけでは、将来に渡って利点欠点を比較し、さらに優れたものを産み出すことができないと考えているのです。

たしかにインプラントは発展途上の治療法で、これはこうだという答は出ていませんけれど、他の分野も日進月歩で去年までの定説は来年はどうなるか判りませんからそれはそれで良いのではないかと思います。だいたい治療法に絶対はありませんから・・・。（以下次号！）



宗心会 Photo Topics!

新名誉会員誕生！旗手 敏先生



宗心会新入会員！



現役通信

全日本歯科学学生総合体育大会の結果

新人の部	優秀	曾我一本同組
初段の部	最優秀	青木-高橋組
式段以上の部	最優秀	小島-狩野組
	決勝進出	本間-大原組
団体演武	最優秀	
総合成績	第三位	



編集後記

とうとう来年の1月から私の町(人口2600人)でも携帯電話が使えるようになります。もう少して、女子高生達がケータイでダバっている姿や、パンチパーマの人が胸をはって歩きながら大声で話す姿を見ることができると思うと大変楽しみです。はっきり言って、人の電波に自分の肉体を貴かれるのは大変に苦痛ですが、女子高生のものなら許してやろうと思います。(北海道 矢口)

日本最難関試験といえば、司法試験でも、むろん歯科医師国家試験でもなく、剣道の八段昇段試験らしい。きつとそこまでいくと、趣味や娯楽といった域を越えたものであるのだろう。私の勤務先の院長も一つ下の七段昇段を目指して日々修練を重ねているようであるが、ぜひ合格してほしいと陰ながら応援している今日この頃である。(北関東 石川)

ある日の夜、SRSという番組で少林拳法の特集をやっていた。そのなかで本山を紹介していたが、坂東先生の圧法を、武専の生徒にかけているところを見て、おおお...と思った。確かに、門外不出になって当然だろうと思うほどすさまじいもので、間違えば殺してしまうほどの、瞬間的で圧倒的なものだ。ということは...圧法の修得で、勝たずとも負けない戦いができる?!と今更ながらに思ったのであった。(中国・四国 小森)

日ごとに肌寒さが身にしみる季節になりました。これといっはまっている物はないのですが、「じゃまー」という雑誌が目がいてしまいます。それは何でも掲載することができる人々と遊びや悩みなどで会話することができます。しかし、中には変な人がいたりするので注意が必要です。皆さんもいろんな出会いを求め、交友関係を広げる一つの方法として利用してみたいかがでしょうか。(神奈川 植木)

ある日同じ医院に勤務している歯科医から相談を受けた。「パンツを購入する予定でオーダーしたんですけど、ダイアナ元妃の事故を見たら全然丈夫じゃなくて、キャンセルしようと思ってんですけど、ほかに安全な車ないですかね。」一瞬あけにとられたが、その人はまじめにそう思っているらしい。確かにパンツは安全な車と思うが、それをパンツならどんな事故でも助かるとおもって乗ってる人が大勢いるとしたらますます事故は増え、車は走る凶器と化していくのではないだろうか。それより200キロ近いスピードでぶつかって助手席のボディガードの人が助かった事実はすごいことだ。やはりシートベルトは着用していたそうだ。皆さんもシートベルトをして運転しましょう。(東北 宮本)

広報助手になぜか家が近いからという理由で採用された20期小林(池田) 影子です。毛呂歯科宛てに原稿を送られますとブラックホールに吸い込まれます。今後はfwkk2801@mb.infoweb.ne.jpか、FAX(045)805-1701まで原稿をお送りください。確実です。